



SUPERBIKE

EXtra, EXpert and EXtreme

EXPRESS--

JSB 1000
JAPANESE SUPERBIKE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

コースレコードを更新し絶好調の中須賀克行 最終戦決戦に向け意地を見せたい高橋巧 今シーズン初優勝を狙う津田拓也

全日本ロードレース選手権はシリーズ第7戦岡山国際を迎え、JSB1000クラスは、残すところ2戦3レースとなった。前戦オートポリスで中須賀克行が優勝し、高橋巧が転倒後10位となったためポイントランキングは中須賀が逆転しトップに浮上、4ポイント差で高橋が追う展開となって今回のレースを迎えた。中須賀は、岡山国際サーキットとは相性はいいと語るが、高橋は、逆によくないと言う。ここで少しでもポイントを引き離したい中須賀と、差をつけられないようにしたい高橋の想いが交錯。タイトルを争う2人のバトルの行方はどうなるだろうか？

事前テストでマシンセットがほぼ決まったという中須賀は、金曜日にロングランを行いアベレージもよかったこともあり、2番手タイムもまったく焦りはなかったと言う。ノックアウト方式で行われた公式予選では、Q1で1分29秒233をマークし、トップタイムをマークすると、トップ10チャレンジでソフトタイヤを履いてコースレコードを上回る1分28秒370をたたき出し、今シーズン4度目のポールポジションを獲得した。これまでのコースレコードは、2008年に秋吉耕佑が記録した1分28秒387だったが、このときは路面の舗装が一新されたばかりでコンディションがよかったこともあり、レコードを更新するのは難しいと思われていたが実に6年振りに塗り替えられる結果となった。「マシンの仕上がりがいいですし、

ポールポジション、コースレコードは意識せず走りました。決勝は、スタートで前に出て自分のペースで走って主導権を握りたいですね」と中須賀。

一方、高橋は、1分28秒台には入らなかったがQ1では、アベレージもよく、十分トップ争いのできる状態だ。「金曜の状態に比べれば、かなりよくなりました。マシンセットはまだ詰めたい部分は残っていますが勝負できると思います。まずはスタートを失敗しないことが重要課題ですね」と高橋。

中須賀と高橋の間に割って入ったのがヨシムラの津田拓也だ。津田は、金曜日にソフトタイヤで1分28秒474という好タイムをマークしており、予選ではさらにタイムを縮めてくると思われた。しかし気負い過ぎたかタイムを更新できず2番手となった。「ポールポジションを狙っていきましたが何力所かミスしてしまい金曜日よりタイムを出すことができませんでした。ただ、マシンの仕上がりがいいですし、レースでは中須賀選手を逃がさないことが重要だと思っています。前に出て自分のペースで走ることができればいいですね」と津田。今のところトップ3の仕上がりが群を抜いており、この3台は確実にトップ争いを繰り広げるだろう。

トップ3に続いたのは、市販キット車を駆る山口辰也だ。事前テストから調子はよかったが、さらにトップに近づくためにスイングアームを変更するこ

とを決意。レースウィークにぶっつけとなったが、それがいい方向に進んでいると言う。アベレージも1分29秒台で走れると語り、トップグループに絡む可能性は十分あるだろう。前戦のオートポリスでは、トップと僅か1秒457の4位でゴールしているだけに今回も最後までトップグループに加わる走りを見せてくれそうだ。

Team GREENの柳川明が5番手、渡辺一樹が6番手と、そろって2列目からのスタートとなる。圧倒的なストレートスピードを見せるカワサキ勢がレースをかき回してくれるかもしれない。7番手につける加賀山就臣も徐々に調子を上げていっているところだ。前戦のオートポリスではオープニングラップでトップに浮上し、存在感を強烈にアピールした。スタートダッシュには定評があるだけに、今回も3列目からホールショットを奪う可能性は高い。

マシンの仕上がりが見ると、やはり中須賀は群を抜いており、スタートを決めてレースをコントロールしたいところだろう。これを津田、高橋が止めることができるか!? 後半セクションでスピードを見せる山口も侮れない。

決勝日も絶好の秋晴れになりそうな岡山国際ラウンドは好バトルが期待できそうだ。リッタースーパースポーツマシンが繰り広げる国内最高峰のレースを制するのは誰だ!? (佐藤寿宏)

予選2番手/津田拓也



POLE POSITION INTERVIEW



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション: 1'28.370 R
#1 中須賀 克行
ヤマハVSPレーシングチーム

『事前テストでセットが決まったので、ウィークに入ってからセッティングをいじってません。金曜の午後はレースラップをこなしてアブレーションもよかったから、仕上がりは、今年に入って一番だと思います。ここは好きなコースですし、体調もいいので思い切りいいレースができるでしょう。コースレコードを出すことは全く意識していませんでした。ただ、金曜日に津田選手が28秒4を出していたので、ソフトコンパウンドを履けば同じようなタイムを出せる自信はありました。レコードは、2008年のタイムなので、やっと上ることができてよかったです。津田選手も高橋選手もいいアブレーションで走っているので、レースでは主導権を握りにいきたいですね』

予選4番手/山口辰也



J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

作本輝介が全日本初のポールポジション!! 「自分の走りをすれば結果はついてくる!」



ポールポジション: 1'36.558
#33 作本輝介
Club PARIS RSC

日差しが暑く好天となった岡山国際サーキット。最初の予選セッションはJ-GP3クラス。金曜日の練習走行では、山田誓己が1分37秒3でトップタイム。大久保光、鳥羽海渡、ポイントリーダーの水野涼が上位に。公式予選序盤から前半にかけては、その大久保と山田、鳥羽らが37秒前半のタイムで上位を占める。ベテランの徳留真紀もそれに加わり、タイムは塗り替えられていく。

後半、大久保が36秒961とトップをキープしながら36秒台に入れる。山田もタイムアップするが2

番手のまま。しかし、40分間のセッション残り5分、最後のアタックを展開する各ライダーたちが続々とタイムアップ。ここで山田も36秒932に入れてトップに浮上、さらに最後の周回では36秒776まで上げてトップを盤石にしたかに見えた。しかし、それまで37秒後半だった作本輝介が16周目に37秒177を出して一気に3番手に入ると、最終周回で36秒558をマークして全日本初ポールポジションを決めた。2番手山田、3番手大久保、2列目は4番手に徳留、栗原佳祐が37秒355で5番手、鳥羽と続いた。

『コースレコードが1分35秒台なのでうまくいけば入れられると思っていましたが、最後のアタック中にミスをしてしまったので、まさかポールポジションを取れるとは思っていませんでした。金曜日に転倒しなければ、もっといけたかもしれませんですが、応援いただいているスポンサーの皆さん、バックアップしてくれているメカニックさんのためにも結果を残したかったので、まずはポールポジションを獲得できてうれしいです。周りに飲まれることなく自分の走りをして、決勝でも結果を出したいですね』

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

渡辺一馬、圧倒的なタイムでクラス初のP.P. 「主導権を握って、必ず自分のレースをする！」



ポールポジション：1'31.266 R
#47 渡辺一馬
テルル&Y!★KoharaRT

J-GP2クラスの公式予選はまず高橋裕紀が2周目に1分32秒606を記録してトップに立った。しかし、その直後のラップで転倒してしまう。さらに2コーナーで発生した転倒で赤旗中断。その直前、高橋同様に練習走行で31秒台の非公式記録タイムをマークしていた渡辺一馬が、入れ替わるように32秒273をマークしてトップを奪っていた。再開後に渡辺は32秒000とニューレコードを樹立、さらに31秒600と一人だけ31秒台に突入させた。渡辺は終盤のアタックでもさらにタイムアップ、

最終的に31秒266と旧レコードを大きく上回るタイムで、クラス初のポールポジションを獲得した。

井筒仁康も中盤に32秒215まで更新、2番手をキープする。最終周には旧来の記録タイムを上回る32秒003まで上げてセッションを終了、セカンドグリッドを確保した。岩田悟、小山知良のNTSコンビが好調さを発揮、岩田が32秒323でフロントロウに食い込み、小山も32秒399で4番手で続く。5番手には浦本修充が32秒565、6番手も好調な大木崇行が32秒606。高橋は7番手となった。

『今シーズンは、チームがカレックスを用意してくれたのですが、シーズン前半は事前テストで雨が多くうまくセットを出せずにレースウィークを迎えていました。今回は、事前テストでセットが進み、ダンロップさんもいいタイヤを用意してくれたので今週は走ることに集中できたので、このタイムにつながったと思います。ベストタイムはレースタイヤで出しましたし、今週はいい流れをつかんでいると思います。自分の走りに集中してトップで帰ってこられるように頑張ります』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

小林龍太、初のポールポジションを獲得!! 「今年イチバンと言えるくらい順調です！」



ポールポジション：1'33.005
#24 小林龍太
ミストレーサwithHARC-PRO

J-GP3クラスとともに、6月のSUGO以来3カ月振りの開催となったST600クラス。40分の公式予選セッションは、使えるタイヤ本数に制限もあって前半のアタックでほぼ決まった。

今季第2戦のオートポリスでポールポジションを獲得している大崎誠之が1分33秒012をマークして、セッション開始早々にトップに立つ。第3戦もてぎのポールシッターのチャランボン・ボラマイが33秒028で2番手、前回SUGOのポールシッター近藤湧也が33秒236で続く。

第3戦もてぎで優勝した他、着実にポイントを残しているランキングトップの小林龍太はコースインを遅らせていたが、コースに入った次の周回には33秒005をマークしてトップを逆転、最終的にこのタイムのまま初めてとなるポールポジションを獲得した。

2番手以降は大崎、チャランボン、近藤の順で、5番手には33秒265で國川浩道、セカンドロウの最後6番手は33秒352で伊藤勇樹となった。

『事前テストからマシンセットが進み、レースウィークに入ってからもロングランもできていますし、思った以上に順調です。メインスポンサーの昭和電機さんに元グランプリメカニックの方がいるのですが、事前テストから同行してくれているので助かっています。一発タイムよりも、決勝でのアベレージタイムを意識して、その中でポールポジションが取ることができればラッキーだと思っていたのでタイム的には満足しています。セッティングも煮詰まっているので最後まで自信を持ってレースしたいですね』

MFJ Superbike Round7 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA 27 - 28 September 2014 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走25台
●決勝スタート/15:25(24周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	ヤマハYSPLレーシングチーム	YZF-R1	R 1'28.370
2	12	津田 拓也	ヨムラススキェルアドバンス	GSX-R1000L4	1'28.528
3	634	高橋 巧	MuSASHI RTハルクプロ	CBR1000RR	1'29.138
4	104	山口 辰也	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	1'29.426
5	87	柳川 明	TeamGREENE	ZX-10R	1'29.433
6	26	渡辺 一樹	TeamGREENE	ZX-10R	1'29.945
7	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'30.032
8	31	野左根 航汰	NTSチームノリックヤマハ	YZF-R1	1'30.238
9	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'30.364
10	33	藤田 拓哉	PATLABOR DOG FIGHT-YAMAHA	YZF-R1	1'31.160
----- 以上Q2にて決定 -----					
11	32	今野 由寛	MOTOMAPSUPPLY	GSX-R1000L4	1'30.853
12	39	酒井 大作	CONFIA Flex Motorrad39	S1000RR	1'31.457
13	11	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'31.878
14	20	安田 毅史	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	1'31.891
15	28	小島 一浩		CBR1000RR	1'32.285
16	135	寺本 幸司	Team Tras 135HP	S1000RR HP4	1'32.517
17	34	田村 武士	テイクアップOIRF	GSX-R1000	1'32.863
18	77	筒井 伸	DOGFISSHオーテックズスカ	CBR1000RR	1'34.546
19	53	藤本 悦生	TeamFuji111☆L&R	GSX-R1000L2	1'34.666
20	75	今津 比呂志	プラスワンMCRT&ソーラーいちばん	ZX-10R	1'34.891
21	15	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	1'34.924
22	99	吉田 和憲	icuRT&モトキッズ	YZF-R1	1'35.071
23	42	北折 淳	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	1'36.199
24	93	矢木 清貴	YAMANI RACING RPROJECT	S1000RR	1'36.563
25	67	和多瀬 邦治	DOGFISSHオーテック鈴鹿	CBR1000RR	1'36.833
----- 以上Q1にて決定 -----					
----- 以上予選通過 -----					
13		須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1098R	出走せず

R印は、コースレコードを更新した。(従来のレコード:1'28.387)
公式予選Q1上位3台の平均タイムの110% 1'38.360



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走27台
●決勝スタート/14:10(19周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	47	渡辺 一馬	テルル&Y!★KoharaRT	KALEX	R 1'31.266
2	77	井筒 仁康	Will-RaiseRacingRS-ITOH	ZX-6R	R 1'32.003
3	5	岩田 悟	NTST.ProProject	NH6	1'32.323
4	71	小田 知良	NTST.ProProject	NH6	1'32.399
5	634	浦本 修充	MuSASHI RTハルクプロ	HP6	1'32.565
6	13	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'32.606
7	72	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	MD600	1'32.606
8	7	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	TYM-R6	1'32.614
9	55	瀧美 心	テルル&Y!★KoharaRT	TSR2	1'32.634
10	44	関口 太郎	Team TARO PLUSONE	TSR2	1'32.646
11	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-MFD6	1'33.321
12	53	武田 雄一	Team KAGAYAMA	GSX-MFD6	1'33.501
13	73	亀谷 長純	MuSASHI RTハルクプロ	NH6	1'33.533
14	392	長尾 健吾	ミクニ テリー&カリー	GSXR600	1'33.651
15	51	高橋 英倫	桜プロジェクト PITCREW&松戸F	MZX-6R	1'33.742
16	46	星野 知也	SYNCEGE 4413 Racing	HP6	1'34.130
17	24	原田 武人	グリーンクラブ能塚	ZX-6R	1'35.306
18	15	中村 豊	CLUB MOTO BUM	CBR600RR	1'35.778
19	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	1'35.986
20	18	相馬 利胤	TT45	MD600	1'36.007
21	48	西嶋 修	桜プロジェクト PITCREW&松戸F	MZX-6R	1'36.077
22	11	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR2	1'36.109
23	22	鎌田 悟	TOHO Racing+おでんセイバーハート	MD600	1'36.222
24	810	大西 明	大阪SAM.RT&YS'ファクトリー	SAM600RH4	1'36.223
25	91	山内 宏之	FTC&立秋RT	YZF-R6	1'37.923
26	81	中尾 健治	R&Tサークル-YSP支部	YZF-R6	1'38.331
27	16	赤間 清	ミストレーサーwithHARC-PRO	HP6	1'38.706
----- 以上予選通過 -----					
R印は、コースレコードを更新した。(従来のレコード:1'32.055) 予選通過基準タイム (110%) 1'40.393					



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走37台
●決勝スタート/11:05(19周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	24	小林 龍太	ミストレーサーwithHARC-PRO.	CBR600RR	1'33.005
2	3	大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'33.012
3	65	Chalempol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'33.028
4	14	近藤 湧也	GBSレーシング・YAMAHA	YZF-R6	1'33.236
5	104	國川 浩道	TOHORacingpwbbyモリワキ	CBR600RR	1'33.265
6	76	伊藤 勇樹	Petronas.Hong Leong Yamaha	YZF-R6	1'33.352
7	18	日浦 大治朗	Honda鈴鹿レーシング	CBR600RR	1'33.563
8	6	稲垣 誠	AKENO.SPEED-MIC	YZF-R6	1'33.624
9	7	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'33.679
10	69	津田 一磨	WestPower SUZUKI	GSX-R600	1'33.718
11	20	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	1'33.901
12	2	横江 竜司	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'34.070
13	33	岡村 光矩	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'34.221
14	56	前田 恵助	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'34.228
15	22	奥野 翼	AKENO SPEED	YZF-R6	1'34.260
16	34	中本 都	リリカ AMENA RT with OutRun	YZF-R6	1'34.641
17	12	篠崎 佐助	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'34.693
18	45	石塚 健	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'34.701
19	29	瀬田 浩史	D:REX Racing Triumph	DAYTONA675R	1'34.847
20	38	齋崎 恭広	カメイレーシング&Teamまんだい	ZX-6R	1'34.988
21	36	松川 泰宏	MOTOBUM+SAI	CBR600RR	1'35.587
22	51	宗和 孝宏	51ガレージチームイワキ	YZF-R6	1'35.715
23	57	森本 誠一朗	Team38 PS-K	ZX-6R	1'35.770
24	16	宮嶋 佳毅	TOHORacingpwbbyモリワキ	CBR600RR	1'35.815
25	91	奥谷 真也	ちーむとらお。モトストリーム	YZF-R6	1'35.840
26	13	高橋 頌	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'35.844
27	82	田中 歩	AKENOSPEED	YZF-R6	1'35.850
28	44	松本 正幸	Teamマーキュリー&モトスト	ZX-6R	1'35.913
29	50	河端 清次	Team カワサキマーキュリー	ZX-6R	1'36.406
30	73	麻生 将大	eni MOTOWORKS	F3-675	1'36.421
31	64	矢田 栄一郎	RT OutRun	YZF-R6	1'36.460
32	72	川口 篤史	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR600RR	1'36.555
33	74	伊賀並 洋平	浜松チームタイタン	GSX-R600	1'36.581
34	97	佐野 優人	SRSJwithMORIWAKI	CBR600RR	1'36.670
35	88	宮脇 健二	Trip Trap&亀甲堂	YZF-R6	1'38.017
36	66	松本 尚樹	TEAM GENIUS	YZF-R6	1'38.666
37	92	福島 正樹	ToyBoy&FACTORY&MMRT	CBR600RR	1'39.277
----- 以上予選通過 -----					
予選通過基準タイム (110%) 1'42.306					



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走35台
●決勝スタート/10:00(19周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	33	Y	作本 輝介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'36.558
2	1		山田 誓己	リベルトPLUSONE&ENDURANCE	NSF250R	1'36.776
3	3		大久保 光	HotRacing	NSF250R	1'36.961
4	7		徳留 真紀	Tome Team PLUSONE	NSF250R	1'37.355
5	27	Y	栗原 佳祐	CLUB HARC-PRO	NSF250R	1'37.355
6	67	Y	鳥羽 海渡	TEC2&TDA&NOBBY	NSF250R	1'37.481
7	19		古市 右京	KTM RACING.ASPIRATION	RC250R	1'37.504
8	31	Y	岩戸 亮介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'37.530
9	634	Y	水野 涼	MuSASHI RTハルクプロ	NSF250R	1'37.641
10	35	Y	伊達 悠太	犬の乳酸菌jp/プリミティブR.T.&バトルF	NSF250R	1'37.762
11	22	Y	中山 翔太	TECHNICAWITHKUSHITANI西宮	NSF250R	1'37.877
12	55	Y	船田 俊希	FLEX Racing Team	NSF250R	1'37.891
13	10		菊池 寛幸	TEC2&TDA&NOBBY	NSF250R	1'37.994
14	18		澁田 農央	ウイダーHotRacing.iF	NSF250R	1'38.027
15	56		山本 旭	テルル&Y!★KoharaRT	NSF250R	1'38.076
16	30		岡崎 静夏	KoharaRacing	NSF250R	1'38.101
17	66		大内田 拓	DOGFISSHオーテック・鈴鹿	NSF250R	1'38.135
18	88		Gerry Salim	Astra Honda Racing Team	NSF250R	1'38.467
19	26		高杉 奈緒子	モトバムwithヒボガタマス	NSF250R	1'38.507
20	14		安村 武志	犬の乳酸菌jp/プリミティブR.T	NSF250R	1'38.537
21	98	Y	佐野 勝人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'38.736
22	45	Y	南本 宗一郎	P. MU 7C HARC	TSR3	1'38.858
23	15	Y	山元 聖	P. MU 7C HARC	NSF250R	1'38.866
24	32		山本 恭裕	広島カジャ Racing&LRC	NSF250R	1'38.870
25	52	Y	高谷 純平	TECHNICAWITHKUSHITANI西宮	NSF250R	1'38.904
26	25		石崎 司也	TEC2&TDA&NOBBY	NSF250R	1'38.923
27	41		宇井 陽一	41Planning	loda	1'39.079
28	40		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	NSF250R	1'39.380
29	39	Y	伊藤 和輝	KoharaRacing	NSF250R	1'39.495
30	53	Y	中山 愛理	TECHNICA with KUSHITANI 西宮	NSF250R	1'39.557
31	72		岸田 慶一	FLEX Racing team&MH OHARA	NSF250R	1'39.602
32	36	Y	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	TSR3A	1'39.607
33	85		村井 浩志	ZAPPER&YERC	NSF250R	1'39.769
34	51		古澤 幸也	FLEX Racing TEAM	NSF250R	1'40.255
35	61		今中 満	ホワイTR&広島高調YERC天歩	NSF250R	1'40.161
----- 以上予選通過 -----						
予選通過基準タイム (J-GP3:110%) 1'46.454 Cls : Y=ユースカップ登録者						

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!
「毎週月曜夜8時はバイクの時間」がキーワード!

2014年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレ
ース開催8日後に「BS12 TwellV(トゥエルビ)」で完全無料放送。
現場ではカバーできないようなシーンや迫力のバトル、車載カメラによる映像など、あらためてお楽しみください!!

■放映スケジュール

第7戦岡山国際 10月6日(月) 20:00~20:54

ますます充実するインターネット動画!!



コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信!
スマホ対応です。



YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!



TV収録用高画質映像を決勝レース
終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>